

問題【国語】

下の文は、竹取物語の一節で、かぐや姫から「燕の産んだ子安貝」を持ってくるように言われた中納言石上麻呂が、燕の巣の中にある何かを掴んで地面に落ちた後の場面です。この場面の中で「甲斐なし」はどのように生まれた言葉と説明されているか、書きなさい。

御手を広げたまへるに、燕のまり置ける古糞を握りたまへるなりけり。それを、見たまひて、「あな、かひなのわざや」とのたまひけるよりぞ、思ふに違ふことをば、「かひなし」といひける。

豆知識 雑学コラム

古典に出てくる由来は？

かんばってやったことなのに結果が出ないときに「がんばった甲斐がない」と言いますね。この「甲斐がない」とはもともとどんな由来でできた言葉なのでしょう。今回は竹取物語の中でかぐや姫から「燕の生んだ子安貝」を取ってくるように言われた中納言石上麻呂の話から「甲斐なし」の由来を見ていきます。

古典の竹取物語では、大人になったかぐや姫が求婚する5人の男に無理難題を課します。「燕の生んだ子安貝」を取ってくるように言われた中納言石上麻呂は小屋にある燕の巣に目をつけて、籠と綱を使って高いところにある燕の巣の中から子安貝を取る方法を思いつきます。そして、実際に籠と綱で燕の巣に近づいて何かを掴んだ後に、誤って地面に落ちてしまいました。地面に落ちた後、掴んだ手を開けてみると中には子安貝ではなく、燕のフンが入っていたので、「(手の中に)貝がない」から期待した通りにいかないことを「甲斐なし(甲斐がない)」というようになったという話です。実際にはこの話は作り話ですが、期待通りにいかないことを「甲斐なし」ということを覚えるには納得できる話ではないでしょうか。

さて、実際の「甲斐なし」はどのような由来でできたものなのでしょう。「甲斐なし」の「かい」はもともと「交換する」、「かえる」という意味の「替ふ」から派生した「かひ」という言葉から生まれたと言われていきます。「かひ」は「何かと交換できるもの」、「交換できるだけの価値があるもの」という意味で使われ、そこから「価値」という意味も出てきました。そして、「かひなし」は「価値がない」、という意味で使われるようになって、今の「期待通りにいかす無意味だ」という意味ができました。

実際の由来も聞いてなるほどと思いますが、やはり竹取物語に出てくる由来の方が分かりやすく覚えやすいですね。

【解答】

「(手の中に)貝がない」から期待した通りにいかないことを「甲斐なし(甲斐がない)」というようになったという話です。実際にはこの話は作り話ですが、期待通りにいかないことを「甲斐なし」ということを覚えるには納得できる話ではないでしょうか。